

1998年に発表された書籍・論文

ISHIBASHI Masatake, Essai d'interprétation d'un dialogue gestuel dans l'œuvre de François Rabelais, IN Cahiers d'études françaises Université Keio, 3号、1998年12月、pp.1-17

伊藤進、「フランス近世初期における荒ぶる狩猟の神話をめぐってーロンサールの「霊鬼」讃歌への一註釈ー」、『外国文学研究』（中京大学外国文学同好会）、特集号、1998年

伊藤進、「野人、このヨーロッパの内なる怪物」、『中京大学 教養論叢』、38巻3号、1998年1月、pp.111~146

IWAI Shunichi, Les fondements de l'enseignement des connaissances encyclopédiques chez Rabelais, 『仏語 仏文学論集』（上智大学）、32号、1998年3月、pp.23~30

岩根久、「ロンサールの『論説詩集』と出版」、『ロンサール研究』（日本ロンサール学会）、11号、1998年6月、pp.1~14

江口修、「«Brigade»の運命について」、『小樽商科大学 人文研究』、96号、1998年8月、pp.43~50

延味能都、「ロンサールの詩における同一表現ー4つの恋愛詩集を出発点としてー」、『ロンサール研究』（日本ロンサール学会）、11号、1998年6月、pp.15~42

小方厚彦、「16世紀フランス語における過去分詞の一致について」、『関西大学 文学論集』、47号-3、1998年2月、pp.1~19

奥村真理子、「モンテーニュ、見上げる目、見下ろす目(3)」、『広島大学 文学部紀要』、58巻、1998年12月、pp.217~235

折井穂積、La structure symétrique dans l'Enfer de Clément Marot, 『仏文研究』（京都大学）、29号、1998年9月、pp.13~32

鍛冶義弘、「«Querelle des Amyes»をめぐって」、『独仏文学』（大阪府立大学独仏文学研究）、32号、1998年、pp.143~161

木ノ脇悦郎、「エラスムスのProblema (1533)について」、『関西学院大学 神学研究』、45号、1998年3月

近藤壽良、「『孤独な騎士のために』あるいは『運命への嘆き』ーブリュッセル、アルベール1世王立図書館所蔵写本21521-21531の一作品をめぐってー」、『ロンサール研究』（日本ロンサール学会）、11号、1998年6月、pp.43~65

久保みゆき、「スポンドの愛の詩におけるマニエリスム」、『ロンサール研究』（日本ロンサール学会）、11号、1998年6月、pp.67~84

黒澤恵美子、「フォルトゥーナをめぐる描写と表現ーロンサールのイメージを通してー」、『明治大学 文学研究論集』、8号、1998年2月、pp.157~170

小山啓子、「近世初期フランスにおける国王儀礼の変遷ー王位継承儀礼と入市式を中心にー」、『西洋史学論集』（九州大学）、36号、1998年12月、pp.19~40

菅波和子、「ジャック・タユローの『対話』」、『国際関係研究（国際文化編）』（日本大学）、19

巻2号、1998年12月、pp.185-206

鈴木教司、「フランス売官制の消長（10）司法官職を中心にして」、『愛媛法学会雑誌』、24巻-3、1998年1月、pp.1~23

鈴木教司、「ヴァロワ期パリ高等法院の社会経済面と司法運用（2）売官制との関連（1の2）」、『愛媛大学 法文学部論集 総合政策学科編』、4号、1998年2月、pp.1~24

鈴木教司、「フランス売官制の消長（11）司法官職を中心にして」、『愛媛法学会雑誌』、24巻-4、1998年3月、pp.1~30

鈴木教司、「フランス売官制の消長（12）司法官職を中心にして」、『愛媛法学会雑誌』、25巻-1、1998年7月、pp.1~29

鈴木教司、「ヴァロワ期パリ高等法院の社会経済面と司法運用（3）売官制との関連（1の3）」、『愛媛大学 法文学部論集 総合政策学科編』、5号、1998年9月、pp.1~26

鈴木教司、「フランス売官制の消長（13）司法官職を中心にして」、『愛媛法学会雑誌』、25巻-2、1998年10月、pp.1~29

高橋薫、「フランス16世紀読書報告（1997）別巻」、『仏語仏文学研究』（中央大学）、30号、1998年3月、pp.45~186

田中正邦、「村の合戦 — 『田園閑話』第9章におけるノエル・デュ・ファイユとラプレー」、『Etudes Françaises』（早稲田大学）、5号、1998年3月、pp.14~25

辻本義幸、「16世紀フランスのポーム球戯の競技規則」、『神戸松蔭女子学院大学・神戸松蔭女子学院短期大学 研究紀要（人文科学・自然科学篇）』、39号、1998年3月、pp.21-58

中川晋介、「ジッドとモンテーニュ(1)」、『椋山女学園大学 研究論集（人文科学篇）』、29号、1998年3月、pp.69-78

西村隆誉志、『ヨーロッパ近代法学形成史の研究 -16世紀フランス知識社会とドナーの法律学-』、敬文堂、1998年12月

西村美穂、「ラプレー 『第3之書パンタグリユエル物語』における語り手"フランソワ・ラプレー"の役割」、『明治大学 文学研究論集』、8号、1998年2月、pp.145~155

西村美穂、「フランソワ・ラプレーの『暦』について」、『明治大学 文学研究論集』、9号、1998年9月、pp.99~115

野村信、「カルヴァンの聖霊論（1）重要語「聖霊の効力」について」、『東北学院大学 キリスト教研究所紀要』、16号、1998年7月

平野隆文、「悪魔のいるルネサンス 7~18」、『ふらんす』（白水社）、1998年1~12月号、1月号pp.24~27; 2月号pp.24~27; 3月号pp.24~27; 4月号pp.68~71; 5月号pp.70~73; 6月号pp.84~87; 7月号pp.90~93; 8月号pp.86~89; 9月号pp.86~89; 10月号pp.86~89; 11月号pp.88~91; 12月号pp.88~91

Charles BENE、「Piere de Ronsard et le mythe d'Hercule au XVIe siècle」、『ロンサール研究』（日本ロンサール学会）、11号、1998年6月、pp.85~98

保苅瑞穂、「モンテーニュの怒りについて — 乱世に生きるための叡知」、『東京大学 超越文化科学紀要』、3号、1998年6月、pp.166~142

堀越宏一、「製鉄業における中世から近世への転換 — 15世紀・16世紀前半のロレーヌ地方における間接製鉄法の登場と製鉄経営—（前編）」、『東洋大学 文学部紀要 史学科篇』、51集23、1998年3月、pp.53~152

堀越宏一、「14、15世紀フランスにおける諸侯領、または地方郷土伝統の誕生」、『東洋大学 白山史学』、34号、1998年4月

宮川慎也、「モンテーニュ『エッセー』における自己表現の重要性：「子供の教育について」（I、26）」、『明治大学 文学研究論集』、9号、1998年9月、pp.87~97

森井眞、「カルヴァンとフマニタス」、『明治学院大学 キリスト教研究所紀要』、30号、1998年2月

François ROUGET、Olivier de Magny, amant libertaire et poète de l'inconstance、『ロンサール研究』（日本ロンサール学会）、11号、1998年6月、pp.99~115

和田光司、「宗教戦争末期のフランス・プロテスタントに関する史料群について」、『史観』、138号、1998年3月、pp.48~65